

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	特別養護老人ホーム はなの家とむろ	階数	地上4F
建設地	神奈川県厚木市戸室5丁目9番15号	構造	RC造
用途地域	工業地域、防火指定なし	平均居住人員	126人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年10月 予定	評価の実施日	2010年4月26日
敷地面積	2,527 m ²	作成者	山宮 康延
建築面積	1,561 m ²	確認日	2010年5月25日
延床面積	5,354 m ²	確認者	湯山 泉



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8 ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 明るく温もりのある環境の中で、利用者と介護者が親密な関係で結ばれ、安心して快適な日常生活を営むことができる「住み慣れた家」でありたい。また地域の中に溶け込み、お互い助け合い、地域と共に歩む福祉を實踐し、最後までその人らしい自立した人生を送れるようにかかわれる笑顔の絶えないスタッフが支える「地域の拠点施設」でありたい。	その他 新エネルギー設備の導入に関しては、今回は予算上認められないが、将来設置可能なスペースの確保と設備荷重を見込んだ構造計算としている。	
Q1 室内環境 個室は「家(長屋)」であり、廊下は「路地」であり、共同生活室は皆が集う井戸端会議の場所と捉え、そんなヒューマンスケールで、ユニットごとに特色を持った街並みを提案している。	Q2 サービス性能 近隣からの要望を考慮して、サービスも含めたアクセスは北側道路から確保する。又、利用者をもつて目的の場所まで誘導できるように「ウェイディング」計画を行い、シムリ-なプランの中で各エリアの明確な場所性を与えるよう意識する。	Q3 室外環境(敷地内) 建物は南北の軸線上に配置し、中庭(吹抜け)を設けることで、採光・通風が享受されるよう配慮した。在宅支援部門は、地域に開かれ地域と共に歩む象徴的な部門として、開放的で温もりのある施設環境を整備した。
LR1 エネルギー 必要部位に断熱材を使用し、建物外皮から室内への熱の進入を最大限抑えている。また開口部には複層ガラスを採用し同じく熱の進入を抑えている。庇やバルコニーを設けて、室内への日射遮蔽性を高めている。	LR2 資源・マテリアル 基礎、地中梁、土間下等の砂利地業には再生砕石を使用する。またタイル等にはエコマークを取得した製品の使用に努める。	LR3 敷地外環境 周辺が低層の住宅地なので、北側は3階建として日影と周辺に与える圧迫感に配慮したファームとしている。又、建物全体のボリューム感を抑え、近隣に明るさを提供する目的で外装仕上材は明度の高いタイルと、落ち着きある外装塗材を複合的に組み合わせている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたし